

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 487 号	氏名	川畑拓誠
学位審査委員		主査	岩田修永
		副査	中嶋幹郎
		副査	西田孝洋
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、ERK-MAP キナーゼ経路の選択的遮断剤 (MEK 阻害剤) と微小管作用薬の併用による顕著ながん細胞死誘導増強の分子機能を多角的に検討したもので、目的は十分に妥当である</p> <p>2 研究手法に関する評価 この種の研究成果を左右するがん細胞の維持、管理はもとより、細胞処理法、薬剤処理後の細胞動態観察法は適切に検討されている。また、遺伝子操作法、ウエスタンブロット法を駆使して、様々な条件下における細胞死調節タンパク質の変動を詳細に解析しており、これらの手法は高く評価できる。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、MEK 阻害剤と微小管作用薬の併用は、がん細胞における Bim (細胞死誘導タンパク質) の濃度上昇、および Mcl-1 (細胞死抑制タンパク質) の濃度減少を介して、顕著な細胞死を誘導する事を見出した。本研究成果は、MEK 阻害剤のがん治療への応用を検討する上で、確かな方向を提示するもので、今後のがん分子標的治療研究に新しい展開をもたらす事が期待される。</p> <p>以上のように、本論文は MEK 阻害剤を利用した新規がん化学療法の開発に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (薬学) の学位に値するものと判断した。</p>			